

（別紙様式4）

平成29年3月31日現在

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
トライデントスポーツ医療看護専門学校	平成11年3月31日	木村 俊介	〒461-8611 愛知県名古屋市千種区今池1-5-31 (電話) 052-735-1608			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 河合塾学園	昭和53年8月1日	理事長 河合 英樹	〒461-8611 愛知県名古屋市千種区今池1-5-31 (電話) 052-735-1600			
目 的	柔道整復師になろうとする者に対して必要な知識及び技術を教授し「確かな専門知識と技術」、「苦痛や思いを理解し適切に対応できる豊かな人間性」、「組織運営や経営のための管理能力」など3つの能力を統合した「実践力」ならびに「臨床力」を習得する教育を通じ、社会・地域で活躍し貢献する柔道整復師を養成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療専門 課程	柔道整復学科 (夜間部)	3年(夜間)	2,430単位時間	平成22年 文部科学省告示 第153号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1,440単位時間	345単位時間	0単位時間	45単位時間	600単位時間	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90人	31人	8人	15人	23人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法について 筆記試験・実技試験等による総合判定	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月9日～8月21日 ■冬 季：12月23日～1月4日 ■学 年 末：3月31日			卒業・進級条件	必要単位数を修得すること。 学費を期限までに完納していること。 校長が認定すること。	
生徒指導	■クラス担任制：有 ■長期欠席者への指導等の対応 個別面談、保護者面談、電話面談			課外活動	■課外活動の種類：無 ■サークル活動：有	
就職等の状況	■主な就職先、業界等 病院・接骨院 ■就職率* ¹ 100.0% ■卒業者に占める就職者の割合* ² 70.0% ■その他（任意） （平成27年度卒業者に関する平成28年3月時点の情報）			主な資格・検定	・柔道整復師国家試験受験資格	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 2名 ■中退率 5.0%</p> <p>平成27年4月1日在学者 40名（平成27年4月入学生を含む） 平成28年3月31日在学者 38名（平成28年3月卒業者をを含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、学費支払い困難</p> <p>■中退防止のための取組 個別面談、保護者への個人成績表の送付</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://sports.trident.ac.jp/</p>

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものである。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者をを含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

（教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針）

現場で実践されている新しい知識や技術を学校として吸収し、教育内容に反映していくことを目指す。学生への授業内容についても実際の患者のニーズに対応した、最新の施術のすすめ方を参考にして教授する。業界が求める人材や今後の業界発展に必要とされる資質、要件などについての知見を得たうえで、教育に取り組んでいくことが重要であるため、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請や提言を聴取し、教育運営に資することを企業等との連携の基本方針としている。

（教育課程編成委員会等の全委員の名簿）

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
森川 伸治	公益社団法人 愛知県柔道整復師会 会長
小林 忠雄	こばやし接骨院 院長
村瀬 茂	村瀬接骨院 院長
木村 俊介	トライデントスポーツ医療看護専門学校 校長
岩田 真二	トライデントスポーツ医療看護専門学校 統括チーフ
加藤 稔啓	トライデントスポーツ医療看護専門学校 学科長
河口 亮太	トライデントスポーツ医療看護専門学校 教務主任

（開催日時）

第1回 平成29年2月18日(土) 13:30~13:55

第2回 平成29年2月18日(土) 13:55~14:20

2. 主な実習・演習等

（実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針）

企業との連携による実習科目においては、柔道整復の施術業務を現実的に体感させることを主目的に設定する。施術実習を通じて、施術所の日常臨床で用いられる技術や知識を体験、習得させる。また、学生の評価においても、柔道整復臨床に従事する施術者に対する評価基準も加味し実施する。こうした実習をとおして、社会人基礎力の育成も合わせて目的に設定する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床実技Ⅲ	臨床で多く遭遇する外傷を課題として設定し、対応する診察法、整復手技、固定実技、検査手法を繰り返し実習し、実際の柔道整復の施術に対応できるような方法と手技を順序だてて組み、実践的な演習を行う。	こばやし接骨院

3. 教員の研修等

（教員の研修等の基本方針）

専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、個人の努力目標として、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。業界第一線の知識・技術の習得については各種の業界団体や学会、勉強会に積極的に参加を求めている。また、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても法人全体の課題として取り組んでいく。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
徳永 勝哉	有限会社 ガイアそうこ
小林 忠雄	こばやし接骨院
岡田 壮市	医療法人珪山会 鶴飼病院
東 裕子	医療法人としわ会 介護老人保健施設 セントラーレ
志知 紀代乃	中日新聞社健康保険組合 中日病院
榊田 昌三	愛知県立明和高等学校
上田 章人	株式会社ストロウハット ラ・グラッセ山王橋

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: http://sports.trident.ac.jp/college_guide/documents/index.html

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://sports.trident.ac.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程 柔道整復学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			身体のおくみ	生体に関する領域として、栄養と代謝、消化・吸収、体液と血液などの構造と機能を取り上げて理解を深める。『生理学』『解剖学』の学習につなげる。	1 前	30	2	○		
○			PC 入門	現在最も一般的である Word、Excel、Power Point の 3 つのアプリケーションソフトの基本的操作を習得する。	1 前	30	2	○		
○			栄養学概論	各栄養素の働きや代謝、疾病予防のための各栄養素の摂取の仕方、疾病治療のための食生活を理解する。	1 後	30	2	○		
○			文章表現	文章作成の基本的事項を理解し、文章表現の能力を高める。情報を収集、整理し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめる力を養う。	1 前	30	2	○		
○			ホスピタリティマインド	相手を受容し、共感するケアコミュニケーションの基本を理解し、より感性豊かな施術者を目指す。	1 前	30	2	○		
○			精神保健学概論	医療知識・技能に加えて、心理学の知識や技法、ものの見方・考え方を身につけることで、患者との対人関係が円滑になり治療効果が高めることを学習する。	2 前	30	2	○		
○			社会福祉概論	社会福祉のなかで社会保険や生活保護、公衆衛生などを重点的に学習し、保護や給付の内容と要件を正確に理解する。	2 後	30	2	○		
○			解剖学Ⅰ	柔道整復専門科目を学ぶうえで必要不可欠な骨・筋・関節など運動器を中心に学習する。	1 前	30	2	○		
○			解剖学Ⅱ	運動器に加えて、心臓、動脈・静脈、リンパ管系といった脈管系について学ぶ。	1 後	30	2	○		

○		解剖学Ⅲ	内分泌系及び神経系のうち脳と脊髄、脳神経を学ぶ。また感覚器のうち視覚器・聴覚器及び平衡覚器について学ぶ。	2 前	30	2	○		
○		解剖学Ⅳ	末梢神経のうち、脊髄神経と自律神経について学ぶ。総仕上げとしての体表解剖・映像解剖を学習する。	2 後	30	2	○		
○		生理学Ⅰ	細胞の機能の概要、血液循環、呼吸のメカニズムを理解する。	1 前	30	2	○		
○		生理学Ⅱ	腎臓の機能、体液の恒常性、消化と吸収、栄養と代謝、内分泌系による生体機能の調節について理解する。	1 後	30	2	○		
○		生理学Ⅲ	動膜電位の発生機序、興奮の伝導とメカニズム、神経系の成り立ちと機能、反射と反射弓、運動調節のしくみ、高次脳機能などの理解を深める。	2 前	30	2	○		
○		生理学Ⅳ	収縮のしくみ、筋収縮時のエネルギー代謝、体性感覚の特徴、特殊感覚の特徴などの理解を深める。	2 後	30	2	○		
○		運動学Ⅰ	人間の身体運動の理解のために、運動学に関する基礎的な技術を習得する。	2 後	30	2	○		
○		運動学Ⅱ	人間の身体運動の理解のために、運動が関する基礎的な知識及びその応用を習得する。	3 前	30	2	○		
○		病理学概論Ⅰ	疾病の成因と病態を形態学的に学習する。	2 前	30	2	○		
○		病理学概論Ⅱ	疾病の原因を内因、外因に区別し、各病変の成因と亢進、帰結について全体像を把握すると同時に各病態間の形態学的な相関を比較して学習する。	2 後	30	2	○		
○		一般臨床医学Ⅰ	正常生理と病後生理の接点を研究して疾病の実像を多面的に把握し正確に学習する。	1 後	30	2	○		
○		一般臨床医学Ⅱ	臨床の知識を拡大し、多くの臨床的事項を最大限に吸収して潜在する病因を探る。	2 前	30	2	○		

○		一般臨床医学Ⅲ	これまでの学習の蓄積を基盤としてより正確な疾病に対する観察眼を養う。	2 後	30	2	○		
○		一般臨床医学Ⅳ	病態各論として各主要系統の高頻度発生疾病の概略を病態ごとに関連性を伴って学習する。	3 前	30	2	○		
○		外科学概論Ⅰ	外科学の基礎、臨床に準じた知識を習得する、診療の場において遭遇することの多い疾患・外傷については実用的な内容についても学ぶ。	2 前	30	2	○		
○		外科学概論Ⅱ	外科学の基礎及び応用をマスターする。	2 後	30	2	○		
○		整形外科学Ⅰ	整形外科学の疾患を理解する。	2 後	30	2	○		
○		整形外科学Ⅱ	解剖学、生理学の理解を深めながら、身体部位別に、各論として整形外科的疾患を学ぶ。	3 前	30	2	○		
○		リハビリテーション医学Ⅰ	リハビリテーション医学の基礎知識を習得する。	2 後	30	2	○		
○		リハビリテーション医学Ⅱ	人の痛み、身体の不自由さを知り、「リハビリテーションの実際」として疾患・障害ごとにリハビリテーションの手法を学ぶ。	3 前	30	2	○		
○		衛生学	衛生学の総論及び各論を理解する。	3 前	30	2	○		
○		公衆衛生学	衛生・公衆衛生学の概要を理解する。	3 後	30	2	○		
○		医療概論	医療倫理・医学史・医学論の基礎・基礎医学知識を学ぶ。	1 前	30	2	○		
○		関係法規	基礎法学の学習から、柔道整復師法の理解、その他の医療関係法規や社会福祉関係法規の習得に至るまで、多種多様な法規に関する応用能力の向上を図る。	3 前	30	2	○		

○		柔道Ⅰ	まず柔道の歴史を学び、礼法・受身・体捌き・組み方・崩しを学び、身につける。その後、投技・固技の基本を学ぶ。	1 前	30	1			○
○		柔道Ⅱ	投げ技と「投の形」を中心に習得する。	1 後	30	1			○
○		柔道Ⅲ	これまで学んだ各技を組み合わせた連絡技や固め技の修練等、更なる実力を養う。	2 前	30	1			○
○		柔道Ⅳ	固め技の修練を行い、更なる実力を養う。	2 後	30	1			○
○		柔道Ⅴ	柔道実技の集大成として礼法、投げの形、約束乱取りを含めたより発展的な修練を展開する。	3 前	30	1			○
○		骨損傷総論	柔道整復学の概念、骨の損傷、それに対する評価、整復に対する基礎的な知識を習得する。	1 前	30	2	○		
○		関節損傷総論	関節の構造と機能について解剖学的な知識と関節損傷の基礎を学び、関節損傷学習の礎とする。	1 前	30	2	○		
○		軟部組織損傷総論	筋、腱、血管、皮膚など運動器を構成する軟部組織について、構造・病態・治癒機序の基礎を学ぶ。	1 前	30	2	○		
○		治療法と指導管理	整復・固定・後療法の方法や目的、注意点や、固定・後療法時の日常生活での指導を学ぶ。	2 後	30	2	○		
○		総合演習Ⅰ	柔道整復に必要な「解剖学」「生理学」の知識を整理し、応用問題の演習を行う。	3 前	60	4			○
○		総合演習Ⅱ	柔道整復に必要な「一般臨床医学」の知識を整理し、応用問題の演習を行う。	3 後	60	4			○
○		総合演習Ⅲ	柔道整復に必要な「運動学」「柔道整復学」の知識を整理し、応用問題の演習を行う。	3 後	60	4			○

○		総合演習Ⅳ	柔道整復に必要な「衛生学」「公衆衛生学」の知識を整理し、応用問題を行う。また、外傷や障害による変化や症状の鑑別法を学ぶ。	3 通	60	4		○	
○		総合演習Ⅴ	柔道整復に必要な「病理学概論」「外科学概論」や下肢・体幹骨折の外傷や障害による変化などを学ぶ。	3 後	60	4		○	
○		総合演習Ⅵ	外傷性脱臼や骨折、軟部組織損傷について学び、演習を行う。	3 通	45	4		○	
○		上肢骨折各論Ⅰ	柔道整復領域における上肢帯・自由上肢の骨損傷を学ぶ。本講では鎖骨、肩甲骨、上腕骨で主に閉鎖性の骨損傷を取り上げる。	1 後	30	2		○	
○		上肢骨折各論Ⅱ	上肢帯・自由上肢の骨損傷を学ぶ。本講では尺骨、橈骨、手根骨で主に閉鎖性の骨損傷を取り上げる。	2 前	30	2		○	
○		下肢骨折・脱臼各論	下肢骨折・脱臼の発生機序、主訴、治療法を習得し、実際に臨床現場で治療に当たるための知識を養う。	1 後	30	2		○	
○		上肢脱臼各論	各脱臼の分類、発生機序、症状、合併症、固定法、整復法などを学び、臨床で脱臼の治療にあたるための知識を習得する。	2 前	30	2		○	
○		四肢軟部組織損傷各論Ⅰ	軟部組織損傷の知識を上肢部位別に学び習得する。	1 後	30	2		○	
○		四肢軟部組織損傷各論Ⅱ	軟部組織損傷の知識を下肢部位別に学び習得する。	2 前	30	2		○	
○		頭部体幹損傷各論	頭部・体幹損傷の知識を部位別に学び習得する。	2 前	30	2		○	
○		スポーツ外傷学Ⅰ	“スポーツ”の観点から運動器の外傷を学び考察する。	1 後	30	2		○	
○		スポーツ外傷学Ⅱ	柔道整復が取り扱うスポーツ外傷について、より専門特化した知識と技能の習得を目指す。また、運動療法の理論や運動処方論についても学ぶ。	3 前	30	2		○	

○		柔整社会学	治療院開業に必要な手続きや患者さんの接客方法、安定した経営のコツなど治療院の経営方法を学ぶ。	3 後	30	2	○		
○		柔整安全管理学	医療安全、柔整臨床におけるリスク管理、事故対応と対処、施術の安全管理を学び、業務範囲を中心に部位ごとのリスクマネジメントを学習する。	3 前	30	2	○		
○		包帯実技Ⅰ	臨床に必要な固定技術の基礎を学び、実習する。上肢を中心に柔道整復における包帯固定の知識と技術を習得する。臨床力養成の観点から上肢帯、自由上肢全体を対象とし実習を進める。	1 前	30	1			○
○		包帯実技Ⅱ	大きいサイズの包帯の取り扱いに習熟し、上肢の体幹固定を確実にできるようデゾー法、ジュール法、ウェルポー法の3つを実習する。	1 通	30	1			○
○		包帯実技Ⅲ	下肢帯・自由下肢を対象に基本的な包帯走行の型を身につける。伸縮包帯の扱いもここで実習するほか、医療機関などでの勤務を想定し、足指の包帯については応用的な方法も実習する。	1 後	30	1			○
○		テーピング実技	テーピングについて基礎的な技術を集中的に実習する。足関節を題材に基本テーピングを実習し、基礎技術やサポートテープの役割などを学ぶ。使用材料やサポートテープのバリエーションを学び、応用的方法も実習する。	1 後	30	1			○
○		触察法Ⅰ	肩、胸郭、脊柱、腰部、膝、手部、足部の骨部位の触察を学ぶ。	1 前	30	1			○
○		触察法Ⅱ	肩、胸郭、脊柱、腰部、膝、手部、足部の筋肉・靭帯の触察を学ぶ。	1 後	30	1			○
○		身体評価法・実習Ⅰ	身体の評価の仕方を学び、障害の程度を評価し、治療方針を組み立てられるようにする。	2 前	30	1			○
○		身体評価法・実習Ⅱ	臨床徒手検査を手技ごとに実習し、理解を深める。	2 後	30	1			○
○		手技療法実習	施術部位別に施術者役・患者役となって互いに体験しながらマスターする。	2 後	30	1			○

○		固定実技Ⅰ	外傷性肩関節前方脱臼、肩鎖関節上方脱臼、鎖骨骨折、肘関節後方脱臼、足関節損傷等を取り上げ、柔整的材料を用い、加工と装着を実習する。	1 後	30	1			○
○		固定実技Ⅱ	応急的、整復直後の固定は柔整的材料を用い加工と装着を実習する。2週まではLAG、4週まではSAC、除去後はSAC利用のシャールでそれぞれ加工と装着を実習する。	2 前	30	1			○
○		徒手整復実技	柔整臨床で遭遇することの多い骨折、脱臼について徒手整復の基本として教科書的な方法を、さらに応用的技法も学び、繰り返し演習する。	2 通	30	1			○
○		臨床実技Ⅰ	臨床で多く遭遇する外傷を課題として設定し、より安全で確実な施術フローを実施できるように実践的な実習を行う。	3 前	30	1			○
○		臨床実技Ⅱ	柔道整復の臨床実技について整復手技、固定実技、検査手技を取り上げ、集中的に実習する。	3 前	30	1			○
○		臨床実技Ⅲ	臨床で多く遭遇する外傷を課題として設定し、対応する診察法、整復手技、固定実技、検査手法を繰り返し実習し、実際の柔道整復の施術に対応できるよう方法と手技を順序だてて組み、実践的な演習を行う。	3 前	30	1			○
○		臨床実習	見学実習を中心に、ケーススタディや技術演習などのグループワークを活発に行う。施術所業務の概要把握、施術録記載に必要な事項の確認も実地に行う。	3 後	45	1			○
合計				75 科目	2,430 単位時間 (140 単位)				